

## 小田急プロジェクト

明治学院大学横浜キャンパスは横浜市の南西部に位置しており、JR 戸塚駅から徒歩 20 分のところにある郊外型のキャンパスである。横浜キャンパスでは「地域に開かれた大学」というコンセプトのもと、「戸塚まつり」や「公開講座」をはじめとした各種活動を実施し、地域との連携をはかっている。しかし、大学周辺を行き来する学生のマナーの問題など、大学と地域の間には様々な課題もある。そういった背景があるなかで、地域との協働作業を行い、大学や明学生と地域住民との関係をつくることを目的として始まったのが小田急分譲地の住民と連携したプロジェクトである。

小田急分譲地は、横浜キャンパスの北門を出た一帯に広がる地域にある。3年前、都市計画道路が開通する以前には分譲地内を通るバスに明学生が乗車しており、この地域と本学との関わりは深い。例えば、地域でおこなわれる防災訓練に学生スタッフがお手伝いに行くなど、ボランティアセンターや学生が小田急分譲地の住民たちとの活動に関わってきたが、恒常的な交流まではいたっていなかった。

一昨年に山下コーディネーター（当時）が住民の方と話をしているときに「学生が地域活動に参加することで、地域、大学、学生の関係性を変化させたい」ということが話題になった。センターとしては学生たちに地域活動の実践を学んでほしいという思いがあり、また住民の方も学生たちが加わることで地域活動がより活発になるのではないかと期待があった。住民の方と活動内容等の打ち合わせの結果、まずは住民の方が行っている「しあわせの会」（食事会とレクリエーション）、「サロンすみれ」（茶話会）、地域の公園清掃の3つの活動に学生たちが参加することとなった。早速にメンバー募集を行った結果、5人の学生が名乗りをあげた。

昨年1月より学生たちは「しあわせの会」と「サロンすみれ」に参加することとなった。運営スタッフの方たちが一人ひとりの健康状態や食べ物の好みに気を配るなど、配慮が行き届いた活動に学生たちは驚きながらも住民同士の支えあいを学んでいる。活動に参加したばかりの学生のなかには、戸惑っている様子も見受けられたが、間もなく打ち解け、料理の手伝いや後片付け、レクリエーション活動に積極的に参加していた。公園清掃の活動では、草刈りなどの掃除を行った。公園の整備の結果、子どもたちが快適に遊べる環境が整えられたり、防犯対策になるなど、地域の方が取り組まれている活動には多くの意義があることに気づいた。また清掃を共にしながら現役時代の仕事の様子を聞いて、学生たちは多くのことを吸収していたようだ。

4月には、学生の自主性を生かした活動を展開していくため、「あったかサークルひまわり」というサークルを立ち上げた。6月に横浜キャンパスで開催された「戸塚まつり」では、横浜市水道局とひまわりの学生たちがコラボレーシ



ョンを行い、横浜市の水源である道志の間伐材を利用したペン立てづくりを計画し、住民の方を招待した。当日はたくさん子どもたちが来校し、まつりを楽しんでいた。このように地域の方と明学生の交流がすすんだ結果、考えられた企画が「小田急プロジェクト・あったかサークルひまわりプロデュース・あったか交流会」<sup>1</sup>である。住民の方にとって大学が「近くて遠い存在」であることを解消し、大学を身近に感じてもらい、気軽に足を運んでほしいという考えから、横浜校舎内のMGカフェに招待しようというものである。この企画をボランティアセンターが主催している「ボランティアファンド学生チャレンジ賞」に応募したところ、助成企画として支援を得ることができた。

夏には、地域の盆踊りの練習に参加したり、小田急自治会のお祭りに参加して神輿を担いだり、矢倉の上で盆踊りを踊らせてもらうなど、一緒になって夏の行事を楽しんだ。

その後、小田急プロジェクトは筆者が担当となり、学生への支援や地域との連絡・調整を行うこととなった。学生たちは、絵本の朗読や明学への関心を高めてもらうようなオリジナルカードゲーム（「明学ここどこ！？絵合わせゲーム」）、を行うなど、自治会の方と学生がともに楽しむ交流を行った。また、自治会の秋祭りや区民まつりのお手伝いなどに積極的に参加し、学生たちの活動は広がっていった。11月には、サロンすみれで知り合った住民の方がMGカフェを訪ね、お茶を飲みながら学生と交流をはかるなど、住民の方と学生、大学の距離は少しずつ縮まっている。

小田急プロジェクトは、社会を支えてきた人生のベテランのそばで活動し、地域活動そのものや、地域をより住みやすくするための方策を体験を通して1つひとつ学んでいく活動である。活動への参加にあたっては受身でなく、積極性も必要である。活動を行っているところは住民の「生活の場」であることに留意し、地道な活動を確実に継続していくということが大切である。

活動を通して、住民の方と学生、大学の距離は少しずつ縮まり、学生と地域の方との関わりも変化している。デイサービスでの食事づくりの手伝いや話し相手という「参加」から、季節にちなんだ企画や交流がすすむ活動を考え、実現していくという「参画」へ、又、自治会の方が大学を訪問したり、大学を地域の資源として活用していただくといった双方向な関係に変化している。このように地域住民と学生、大学が交流する「場」が広がっている。今後はこの活動を通じて、多くの学生、地域住民の方が交流をはかり、学生が地域の方から多くのことを学びながら、地域、学生、大学の交流の輪が広がっていくよう、活動を積み重ねていきたい。

(糸井)



<sup>1</sup>「小田急プロジェクト・あったかサークルひまわりプロデュース・あったか交流会」の目的と活動内容等については、本書「ボランティアファンド学生チャレンジ賞」のページを参照。